

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	自分らしく生きるためにどのような事を望むか自らその立場になって職員全員で話し合い、サービスの基盤となる理念を作っている。	○	理念を念頭に置いてそれに沿ったケアをしていけるよう努めていく。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	苑内に理念を掲示し、また毎日の申し送りで再認識する事で、常に理念を意識してケアに取り組んでいる。	○	申し送り時に声を出し再認識することで、職員同士の意識を高める。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	地域の一員であるということを大切にし、地域の方との交流や行事への参加を積極的に行い理解をいただけるよう努めている。	○	これからも地域行事などへの参加を続けていき、地域の方にも親しんでいただけるようにしたい。
2. 地域との支えあい				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	気軽に声をかけてくださる方も増えてきているが、もっと親しんでいただき立ち寄りいただけるホーム作りに努めている。	○	近隣の方へのあいさつや呼びかけなどを積極的に行い、親しみを持っていただける工夫・努力をしたい。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地域の一員である事を意識し、また地域の方にも親しんでいただけるよう地域主催のイベントやお祭り、長寿会の運動会など積極的に参加している。	○	これからも地域のイベントへの参加を続けていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	良いアイデアや、思いついたことがあれば、毎日の申し送りや月1回行っている全体ミーティングで話し合い、より良いサービスができるように努力している。	○	職員同士が積極的に話し合いの場をもうけて意見交換をしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価をうけるという受け身の姿勢ではなく、自分達自身を見直し、よりよいホームにしていくという意識をもって取り組んでいる。	○	普段から自分たちのホームをより良くしていくという意識を持って取り組みたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では自分たちの取り組みや成果の報告、また、悩みや改善すべき点について地域の方や他の施設の方と話し合い、いただいた意見を参考にしてサービス向上に努めている。	○	ホームでの取り組みを地域の方にもっと知っていただき、理解・支援をしていただけるよう、会議の場を活用していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者を中心に市町村担当者との連携をとり、地域の一員であることを意識しながら、協力を得られるよう呼びかけている。	○	管理者・運営者だけでなく他の職員も市町村の一員ということ意識し、積極的に行き来できるようにしたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	活用している利用者はいないが、職員の勉強会等が少ないため、制度について知り、話し合いをする機会も少ないので、それらの機会を持ちたい。	○	活用している利用者がない為、ミーティングの時間を活用し、職員全員でひとつのことを考えたり、話し合い勉強する機会を増やせるようにしたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止を徹底し、見過ごすことのないよう、普段からの利用者の様子を観察する。職員全員が同じ意識をもって防止に努める。	○	虐待をしない・許さないという意識は持っているが、関連法については学ぶ機会をもつ必要がある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には充分説明を行い、利用者や家族の理解を得るようにしている。不明な点がある場合は納得のいくまで対応・説明を行う。	○	今後とも継続して行う。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見や不満、不安な点は直接または職員や家族を通して、管理者に伝えることができる。管理者や職員はその意見を受けて運営に反映するよう努力している。	○	利用者が気兼ねする事なく、何でも意見を出していただけるよう、信頼関係の構築に引き続き努めると共に、利用者の心情の変化や不安などに気付けるよう、常に関心を向ける。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回の請求書送付時に、個人の預かり金の出納帳のコピーと領収書、苑内のイベント等を写真入りで紹介したお便り、個々についての経過報告などを同封して、利用者の状況を知っていただけるようにしている。	○	お便りの書式や経過報告の方法など、より良く分かりやすい方法があればその都度改善している。今後も良い方法があれば取り入れていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来苑された時に、不満や意見を記入していただけるように御意見箱を設置している。また、来苑時に気軽に意見を出していただけるように日頃からのコミュニケーションを大切に、信頼関係を築けるよう努めている。	○	今後とも継続して行う。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見はいつでも管理者に伝えることができる。必要であれば管理者から運営者に伝える事もできる。	○	今後とも継続して行う。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員の数を増やす等の対応が必要であれば、ミーティングで勤務時間帯について話し合い、管理者や職員の意見をもとに変更・調整をしている。	○	今後とも継続して行う。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間の異動はむやみに行わず、必要最低限にとどめている。また、職員はすべての利用者とはまんべんなく関わり、馴染みの関係になることで、利用者の不安を取り除けるよう努めている。	○	異動の場合は適した所へ適した職員を配置するよう努める。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	協会や市町村からの通知のあった研修にはできるだけ参加するようにし、職員の育成や能力の向上に役立てている。また、それ以外にも、職員が参加したい研修を申し出た場合は受講できるようになっている。	○	引き続き、研修には積極的に参加していく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互評価事業・苑外研修へ積極的に参加し、他の施設の長所を知ってヒントにしたり、悩みを共有して改善策を出し合ったりしてサービスの質を向上させる努力をしている。	○	他の施設の方と交流をし、意見交換をする機会はまだ少ないため、今後も積極的に研修などへ参加していく。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は現場に赴き、必要であれば直接話を聞くなどして職員の悩みやストレスを理解し、改善や軽減に向けての取り組みや提案を行っている。	○	職員が気持ちよく働けるよう、今後も継続していく。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は職員個々の性格や特技・長所をよく理解しており、全体または個々との対話の機会を持ち、職員が向上心を持って気持ちよく働けるよう努めている。	○	職員が悩みやストレスを抱え込む事の無いよう、運営者・管理者に相談しやすい体制をとる。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人と接する機会を多く持てるよう働きかけをし、また、本人の表現できない思いをくみ取る為に観察を行っている。せかず事なく時間をかけて理解のために努力している。	○	個々と接する時間をもち、本人の思いを理解するための努力を続けていく。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の思いをありのままに受け止め共感する事で信頼関係を築き、同じ思いをもって支援にのぞめるよう努力している。また、不安をとりのぞけるよう、知識や経験をもとにいろいろな提案をしている。	○	決めつけや思い込みはせず、まず、家族の話を傾聴することから始め、信頼を得られるよう努力を続けていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	思い込みや決め込みをせず、本人と家族の思いや要望を理解することに努めあらゆる角度から対応していけるよう努力している。	○	今後とも継続していく。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族の方と常に相談・協力しながら利用者の混乱や不信感を招くことのないように配慮しながら支援している。	○	こちらの都合ですすめるのではなく、利用者が主体であることを念頭に家族と共に支援を続けていく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護する側、される側という見方ではなく、共に毎日を過ごす家族としてお互いに支え合い、助け合いながら生活している。	○	支え合い、信頼しあえる関係作りを続けていく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族へのお便りの発行や、気軽に来苑していただける工夫、または来苑された時に積極的に呼びかけ、コミュニケーションをとるようにし、家族と共に本人を支えていけるよう努めている。	○	家族と共に支援するということを常に忘れず、相談・協力をしていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者それぞれの立場や家族の思いを受け止め、理解することに努めている。	○	より良い関係づくりのために、これからも継続していく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	それまで続けてこられたことを1つでも多く継続していただけるように、本人の希望もふまえて支援に努めている。	○	入所されるとそれまでの馴染みの方との交流が減ってしまったり、馴染みのものを我慢されることも多いため、少しでもそれらを途切れさせることのないよう努めていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	毎日の生活の様子・言動をよく観察し、それぞれが無理をすることなく関わりあえるように、また孤立することのないように支援している。利用者同士がお互い良い印象をもてるように間に入りコミュニケーションの橋渡しとなれる努力をしている。	○	利用者同士のトラブルを未然に防ぐことができるよう、観察、予測し、居心地の悪い思いをすることのないよう、工夫をしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了しても、関係を断ち切ることをせず、希望や必要に応じて、相談に応じるなど柔軟に対応している。	○	契約の有無に関わらず、人とのつながりを大切にし、温もりのある関係を苑内外の方と作り上げていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりに合った生活スタイルを尊重し、できる限りのことは本人の意向のまま生活できるようサポートしている。集団生活のため、できる事は限られているが、利用者を1番に考え努めている。	○	利用者の思い・訴えを少しでも多く実行できるように取り組んでいきたい。また、実行できない場合には、違ったアプローチで取り組めるよう努めたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者にとって最適な状態を把握し、わからないことがあれば家族が来られた時に尋ねる等をし、良い生活環境へ一歩でも近付けるようケアをしている。	○	今後も継続して行う。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	得意・不得意を見極め、1日を退屈されないよう努めている。様々な事に参加される方・されない方が決まってくるため、皆に声をかけて、皆が参加できるよう努めている。	○	何もされない時間を少しでも減らし、編み物や野菜切り等をしていただいている。同じ事ばかりでなく、違った事にも挑戦していただけるよう取り組んでいきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に一度のミーティングを行い、利用者が安心して生活をしていただく為に、担当者を中心に話し合いの場を作っている。	○	日常の中で少しでも変化があれば、職員同士で話し合い、いろんな方法で取り組んでいる。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族が来られた時に、現状を細かく伝え、話し合いのもと、改善すべき点があれば、新たな計画を作成している。	○	利用者が不安や不満を抱かないようにするにはどうすればよいのかを考えて、居心地よく生活できるよう話し合い、新たな計画作成に努めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・総合記録表・申し送りノート・日誌等目的別に記録をすることで、より詳しい記録を残すようにする。職員は必ずすべてに目を通し、押印することで読みこぼしのないように努め、情報を共有している。	○	継続し、よりよい方法があれば話し合いにより改善をしていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	決めつけや制限をできるだけ無くし、生活の場としてできる限り本人と家族の希望に添えるよう工夫をしている。あらゆる方法について案を出し合い、支援している。	○	グループホームの特性を最大限に活かせる努力を重ねて、より満足度の高い生活をしていただけるよう努めたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議を活用して、民生委員・長寿会や地域の方への協力をよびかけ、理解を得られるようにしている。ボランティアの方にも継続して来苑していただけるよう呼びかけをし、利用者からも意見を聞くようにしている。	○	利用者からの直接的な意見や希望をもっと聞き取り、それに沿ってボランティア等を取り入れられるようにしていく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者個人の意思を尊重しながら、より良いサービスが受けられるよう、定期的に個々に関する会議を行い、担当職員・管理者ケアマネジャー・看護師が参加している。	○	全体ミーティングの他にも個人に関する担当者会議を継続して行っていくようにする。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じて、対応し、相談など行っており、今後は運営推進会議にも参加していただく予定である。	○	今後、会議への参加により、地域包括支援センターとの連携を密にとり、必要性に応じて協働していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医の診察に加え、その他症状に応じて専門医を受診している。また、週2回の往診や、病院で診察をうける場合は必ず家族に報告し、理解を得ている。	○	体調や本人の様子などは常に家族に報告し、理解と協力を得られるよう努めている。協力医と家族との橋渡しともなれるよう努めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医と相談しながら、認知症に詳しい医師に受診し、職員がいつでも相談をできるように連携をとっている。また利用者に関して何でも相談し、いつでも受診できるよう協力をお願いしている。	○	引き続き連携をとり、認知症に関する知識を得るとともに、適切な対応がとれるよう、努めたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	利用者に関する情報を看護師とも共有し、気づいた点があればすぐに報告し対応を話し合う。介護・看護の双方の観点から適切なケアを行えるよう努めている。	○	ホームの看護師との話し合いの場を持ち、便秘の改善や体調管理について充分協議しながら支援を行っていく。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された場合、担当の医師や看護師と情報を交換し、その方に合った治療・ケアが行えるよう協力している。退院後の対応についても十分に意見交換を行う。	○	担当医師・看護師と情報を共有し合い、早期退院に向けて、協力していく。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した時や終末期についてミーティングで話し合い、職員の意思を統一すると共に具体的な対応に関して意見を出し合っている。また、家族等にもその意向を伝え、理解を求めている。	○	終末期のケアを経験している職員が少ない為、実際のケアの仕方や対応がイメージしにくく、職員同士の意見や意思を統一するのが難しい。今後も具体的な話し合いを、医師も含めて進めていく。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した場合の対応について、自分たちができることを話し合い、また、かかりつけ医も含めたチームでの支援ができるよう具体化を進めている。ミーティング等で少しずつでも話題にすることで意識を高めていくようにする。	○	終末期ケアについては準備の段階であり、職員内はもちろん、家族や医師との話し合いや意思確認を今後も行っていく必要がある。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	環境の変化が及ぼす影響を十分に理解し、住み替え後も本人の混乱を招いたり、違和感を感じることをないよう関係者全員で情報を交換し、案を出し合っている。	○	今後も継続していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりを尊重し、敬う気持ちを忘れずに接する。言葉かけひとつひとつにも気を配り、個人の誇りやプライドに充分配慮する。記録や個人情報は必要な時には充分注意して扱い、むやみに持ち出さない。	○ 相手を尊重する事を常に頭に置いて接する。個人情報にはむやみに人目にふれないよう取り扱いに注意する。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者が主体となる生活を基本とし、利用者自身の意思や自己決定を尊重する。また、希望がうまく表せない方には、個々の力に合わせて支援し、できる限り意思を汲み取れるよう努めている。	○ 継続して支援を行っていく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	こちらが決めた日課や都合を押し付けず、1日の流れを作る支援をしつつ、その中で一人ひとりのペースを守っていただき、自由に過ごしていただけるようにしている。	○ 個人のペースはある程度守られているが、どのように過ごしたいか、何をしたいかという希望をうまく引き出せず、なんとなく時間が過ぎていくこともあるので、もっと個々と接して希望を引き出していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者一人ひとりの好みを理解し、その人らしさを大切にしながらおしゃれをしていただけるよう支援している。美容院や洋服屋など昔なじみの店がある方は、家族や職員が同行し、自由に行っていたい。	○ なじみの店とのつながりを大切に、これからも同じように支援していく。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付け等は個々の力に合わせてできることをしていただき、ご自分の役割を感じていただけるようにしている。食事は行事食やイベント食、また、普段の食事にも季節のものを取り入れ、楽しみとなる工夫をしている。	○ それぞれに好みがちがう為、皆が同様に楽しんで食事をしていただける献立や盛り付けの工夫をもっとしていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつは毎日皆で食べる時間があるので、多くの方が好まれる和菓子を手作りしたり、またそれ以外にも個人で好きな時に食べていただけるようになっている。(購入を支援する。)また、お酒は本人が希望される場合、飲酒量に注意しながら楽しんでいただくようにしている。	○ 好みや楽しみを奪うことのないよう、健康に注意しながら、見守り・支援していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	おむつに頼らず、できる限り自然な形で排泄ができるよう支援している。一人ひとりの排泄のパターンを記録・把握し、誘導と介助によりトイレで排泄していただけるように努めている。	○	数回の失敗で判断せず、残存機能を活かして少しでも自然な形で排泄をしていただけるよう支援を続けていきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日行っている。入りたい時間帯などは、利用者全員から希望を聞き、できる限り皆が気持ちよく入浴できるよう努めている。	○	気持ち良く入浴していただけるよう、工夫を重ねていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝時間や就寝時の居室の状態(明るさ・室温等)、利用者それぞれが安心して休息できるように個々に合った環境を作るよう努めている。	○	今後も継続していく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家族や本人からの話をもとに、生活習慣や趣味・好みを知ることにも努め、それらを提案していくことで生き生きとした時間を過ごしていただけるようにしている。	○	興味をもつていただける提供のしかたや継続していただけるための呼びかけ等、工夫していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理されている方に対しては、無理に預かることはせずご本人の意思やプライドに配慮して、安全に管理できるようさりげなく支援している。こちらで管理させていただく場合は、家族の方に支出の内容がはっきり分かるよう、請求書と一緒に、出納帳とレシートを送付して、確認していただいている。	○	お金を持たれている・いないに関わらず、お金に関するトラブルや心配事を減らしていけるよう努力したい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候が良い日は、気分転換や地域との交流も兼ねて、近所へ散歩に出かけたり、買い物に出かけている。また、いつでも苑庭を散歩していただけるようにしている。	○	できる限り、我慢することなく外に出て気分転換を図っていただけるようにしたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月に何度か「外出の日」をもうけてユニットごとに外食に行ったり、ドライブに行ったりしている。また、天気の良い日はお弁当を持って公園へ行ったり、季節ごとのイベントや行事に出かけるようにしている。家族の方には月々のおたよりで告知し、参加していただけるようにしている。	○	家族と過ごされる時間が少ない方も居るため、一緒に楽しく過ごしていただける機会を増やせるように工夫していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方はいつでも電話をかけられるようになっており、電話機の使用が難しい場合は職員が支援をしている。手紙も同様に、いつでもやりとりをしていただけるよう、支援している。	○	家族の方や大切な人とのつながりを尊重し、本人の思いや要望に添って支援を続けていく。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問していただける雰囲気づくりを行い、また、職員から積極的にコミュニケーションをとることで親しみをもってもらい、訪問しやすいイメージ作りに取り組んでいる。	○	明るく、ひらけた雰囲気作りのための工夫を続けていく。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてミーティング時に話し合っ理解し、拘束のないケアに取り組んでいる。	○	理解したことを引き続き実行し、身体拘束のないケアを行う。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関を開放しており、居室にも鍵はかけない。利用者が望まれた場合には、本人の意思によって自ら内側より鍵をしていただけるようになっているが、職員が鍵をかけることはない。	○	鍵をかけないケアを継続する。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の安全を最優先しながらも、行動の制限はできるだけないようにし、本人の意思を尊重して見守りを行う。	○	利用者一人ひとりの行動パターンや様子を把握し、安全第一でケア・見守りを行っていく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	本人の意思や希望を妨げることなく、危険を防ぐ努力をしている。こちらが管理する場合も本人の了解・理解を得るよう努めている。	○	今後も継続して行う。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個々の性格・行動パターンや注意すべき特徴などを全員が把握し、また、ヒヤリハットを活用して、注意点についての予防策を話し合い、事故防止に努めている。	○	情報を共有して対応を統一し、個々に合った安全対策をとれるよう事故防止に努めていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故発生時の対応についてはミーティング等で常に話し合うようにしているが、応急手当や処置の仕方を理解し実行できる職員が少ない為、訓練の場をもうけたり、講習などに積極的に参加する必要がある。	○	全体ミーティングの時間を利用して勉強会を行ったり、消防の協力なども得ながら職員全員で訓練に取り組んでいきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	あらゆる場面を想定して自主訓練または消防の立会いのもとに訓練を行い、改善点について話し合いをしている。運営推進会議を利用して、地域の方への協力を呼びかけ、緊急時の協力への理解をいただいている。	○	訓練を定期的に行い、地域の方々からも引き続き協力をしていただけるよう日常的に働きかけを行っていく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	個々の特性や希望を理解しつつ、それに伴うリスクについては十分に職員・家族を交えて話し合い、それをもとにできる限り制限なく且つ安全に過ごしていただけるよう努力している。	○	家族との話し合いの時間を惜しまず、家族と共に支援をすることを継続していきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段から利用者の様子を観察し、いつもと違った様子にいち早く気付き対処できるよう努めている。記録・申し送りで職員全員が情報を共有し適切な対応をとれるよう心がけている。	○	観察・記録・情報の共有を徹底し、素早い対応を心がけていきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院からの薬剤情報をよく読み、用法や効能または副作用について充分理解をしている。(不明な点はその都度医師に確認している。)薬は食事のたびに手渡すようにし、必ず全員の服薬確認をしている。	○	継続し支援していく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘が及ぼす影響について充分理解をし、原因となるものへの対処法を話し合い予防に努める。下剤を服用されている方は特に排便の有無・形状・量を詳しく記録し対応している。	○	できるだけ下剤に頼らなくても排便ができるように食事量・水分量に注意し運動もすすめていくように心がけたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個々の力に合わせて声かけ・介助など過剰にならないようにしながら支援を行っている。義歯の方は定期的に義歯洗浄剤による洗浄を行っている。口腔ケアについては食後事務的にならないようにし、タイミングを見計らって声をかける。	○	口腔ケアの重要性を理解し、継続して支援をすすめていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を個々に記録し、特徴を把握することによって必要に応じた呼びかけ・支援をし、栄養バランスを保っていただけるようにしている。	○	それぞれの特徴を理解し、無理なくバランスを保てるよう努めていきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関する知識をもち、職員自身も予防に努めている。対応については医師・看護師を中心に全員で理解し徹底するよう努めている。	○	うがい・手洗いの実行、清潔の保持等、職員・利用者共に徹底する。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器や調理用具等は乾燥機にかけてから収納している。また、冷蔵庫や他の調理用品についても、定期的に消毒している。食材は、新鮮なものを選び、適切な保存方法により、鮮度を確保している。	○	衛生管理を徹底する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには花や生き物を置き、掃除は毎日行っている。また、玄関を出入りする際、不快な臭いがしないよう汚物は外に設置した汚物用バケツに入れている。	○	玄関には花を置き、明るい雰囲気になるよう努めている。花はその季節に合った花を生けている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が1日の中で一番長く過ごされているのは、食事をされているホールなので、ホールには季節やイベント・行事に応じて壁飾りをするなど、利用者が喜ばれるよう工夫している。	○	今後も継続して行う。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになられ、淋しそうにされている時は、声をかけ皆と過ごされる時間を増やすよう心掛けている。利用者の気持ちに配慮して、一人になりたい時は様子を見ながらその場に応じ、一人で過ごせるよう居場所の工夫に努めている。	○	利用者の気持ちを一番に考え、その日の状態や心境を把握して居心地よく過ごせるようにしていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活をする中で、改善点があれば家族や利用者と相談をして心地よく過ごせるよう努めている。	○	生活をする中で、家具の配置や不都合な点があれば、利用者と相談をし、対応していきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	除湿・加湿等行いながら、室温調節を行っている。また、体調に合わせて調節を行っている。本人が居室におられない時には、窓を開け換気を行っている。気になる臭いのある部屋には、消臭剤も利用している。	○	今後も継続して行う。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの機能を活かしていけるよう、できる範囲の事は自分でしていただいている。できる・できないの判断は利用者の様子を見ながら提案している。	○	普段、実行できている事が利用者の体調や気分によっては実行できない時もあるため、その際には違う形で試み、少しでも利用者が意欲的になれるよう努めている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりのパターンを把握し、この先に起こりそうな事を予測しながら、利用者が気落ちしないような環境づくりに心掛けている。	○	利用者同士の口論は日常の中でも多々あるため、少しでも防げるよう心掛けている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	苑庭には花壇・畑があり、花や野菜の成長を見たり、手入れをし収穫することができる。また、外周りには散歩や運動・レクリエーションを行えるスペースもあり、活用している。利用者の居室ベランダでは鉢植えを置き、花を育てるといった楽しみを持たれている。また、能力に応じ洗濯物を干している。	○	今後も継続して行い、外気に触れることができる場所を活用していきたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)